

祝 ロンドン五輪で日本が最多メダル ナショナルトレーニングセンター (北区) が大きく貢献

熱戦に幕を閉じたロンドンオリンピックで、日本選手団は史上最多となる38個のメダルを獲得。これに大きく貢献したのが、北区・西が丘にある「味の素ナショナルトレーニングセンター」です。新聞各紙も「最多メダル、トレセン効果」(朝日)等と報じ、塚原光男総監督も「ナショナルトレセンの活用が有効だった。そこでやっていた競技がメダルを獲得できた」と語っています。同センターは2008年に誕生しました。太田あきひろは、時の首相に直接要望したり、国会質問でも強く求めるなど、その早期開設に尽力。そ

の後も、たびたび同センターを訪れ、選手にとって使い勝手のよい施設となるよう、さらなる拡充に力を注いできました。「(同センターの)成果は確実に表れており、もっと充実させる必要がある」(上村春樹選手団長)――。スポーツは日本を元気にします。2016年のリオデジャネイロ五輪に向けて、太田あきひろは、国を挙げてのスポーツ支援に、いっそう努力してまいります。

早期開設・拡充に尽くした太田が、さらなる整備へ意見交換



メダリスト71人が銀座をパレード(写真上、8月20日)。太田は「味の素ナショナルトレーニングセンター」を訪れ、日本オリンピック委員会(JOC)副会長の福田富昭センター長らと意見交換(同下、7月13日)

味の素ナショナルトレーニングセンター
福田富昭センター長
(JOC副会長)

今も太田さんは、たとえバジはなくても、いつもナショナルトレセンに来て、いろいろな悩みや相談を聞いてくださいます。これは、なかなかできないことです。

直接、足を運んでくださる政治家は、本当に数少ないです。この点からも、太田さんは真に、スポーツの向上と日本のためにやってくださっているのだと強く実感しています。

太田あきひろさんは、押し出しがよく、考え方も前向きで明るい方です。こういう太田さんのような人こそ、政治の中で、ぜひとも活躍していただきたいと願っています。



「地域医療の中核・社会保険病院を守る」 東京北社会保険病院を訪れ、 今後の拡充等を協議

太田あきひろと坂口力元厚労大臣は8月3日、北
区の東京北社会保険病院を訪れ、同院を管理してい
る地域医療振興協会の吉新通康理事長らと意見交
換しました(写真)。

吉新理事長らは、昨年6月に「年金・健康保険福祉施設整理機構法」を改正し、社会保険病院が存続されたことについて、これを強く働きかけた太田らに感謝を表明。今後の拡充に関する考えを示しました。

太田は「社会保険病院は地域医療の中核です。安定した運営ができるように取り組んでいきます」と話しました。

政府・与党に代わり議員立法を主導・成立

東京北社会保険病院は、運営主体の解散により存続が危ぶまれていました。しかし政府・与党は、病院の存続を定める法案をたなざらしにして、2010年6月には廃案に。その後も、まったく対応する気配なし、という有様でした。

これを救ったのが太田あきひろ。太田は坂口元厚労相と連携して、政府・与党に代わって全国の社会保険病院を存続させる議員立法をまとめ、2011年6月に成立。東京北社会保険病院を守ったのです。



同院を管理する地域医療振興協会
よしあら みちやす
吉新通康理事長

太田さんには、我がことのようにご支援をいただいています。法律全体が、どういう意図でつくれ、どういった影響が当病院にあるのか等々、深い理解をもって分かりやすく私どもに教えてください、素早く手を打ってください。この病院にも足繁く通ってくださる、唯一の身近な存在です。

この病院は北区において重要な役割を担っています。めまぐるしく環境が変わる時代にあって、正しく前へ進んでいけるよう、さらなるお力添えをお願いしたいと思います。



東京北社会保険病院
塩津英美管理者(医師)

太田さんは、当病院が本当に北区にとって必要だという強い意志を持って応援してくださっていると、強く感じています。

親しみやすい気さくな人柄で、私たちにも細やかに気を配ってくださいます。

足元がふらついていては、職員の士気にもかわります。社会情勢の中で舵取りする上で、国政の中枢を熟知し、病院運営もよく分かった上で支援してくださる太田さんが、常にそばにいてくださり、安心して何でもご相談できるのは、私たちの大きな力です。